

巻頭言

著者	青山 ヒフミ
引用	大阪府立大学看護学部紀要. 2007, 13(1), p. i
その他のタイトル	Foreword
URL	http://hdl.handle.net/10466/3512

巻 頭 言

大阪府立大学看護学部学部長 青山ヒフミ

平成17年4月に大阪府立の3大学は統合され、旧大阪府立看護大学も大阪府立大学看護学部として生まれ変わった。環境の変化は、少々の混乱とともに新しいなにかを生み出す推進力となる。

平成17年度文部科学省からの「大学教育改革プログラム」に、本学看護学部と看護学研究科より各々応募し、幸いにも2点とも採択された。1点は、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に看護学部より応募した「看護実践能力の獲得を支援するeラーニング」であり、もう1点は、「魅力ある大学院教育」イニシアティブに、看護学研究科より応募した「EBCP志向の博士前期・後期課程リンケージ」である。

採択決定が平成17年度後半に入ってからもたらされたこともあり、初年度はかなり急ピッチな展開が求められた。特に、「魅力ある大学院教育」イニシアティブに取り組んだチームは、プロジェクト・リーダーであった羽山由美子先生の急な発病・死去があり、困難な中での取り組みであった。看護学部教員の多くは、このどちらかのプロジェクトに、あるいは両方のプロジェクトに参加し精力的に進行させていった。

平成17、18年度の主な成果として、現代GPプロジェクトは目標であった看護事例教材100コンテンツを作成し、実際の授業や臨地実習の場でeラーニングシステムを使い始めた。また、大学院イニシアティブプロジェクトは、博士前期と後期課程を繋ぐリンケージとしての授業科目を、現行の大学院カリキュラムに組み込み、継続的に実施できる目途が立った。

両プロジェクトの推進にあたっては、大阪府立大学からの法人をあげての支援を始め、多くの方々の支援をいただき、当初の戸惑いや多少の混乱を乗り越え、成果を生み出すことができた。今後も文部科学省から予定されている「大学院実質化プログラム」をはじめ、大学改革に伴う数多くの課題がある。果敢に挑戦する看護学部であり続けることを願っている。